

作業療法学科(2年生)

専門課程(医療分野)

作 業 療 法 学 科								
区 分		科 目	規定単位	計 画	1学年	2学年	3学年	実務
				単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教 育 学	14	2 (30)	2(30)			
		物 理 学		2 (30)	2(30)			
		医療倫理学		1 (15)	1(15)			
		医療統計学		2 (30)	2(30)			
		医学英語		2 (30)	2(30)			
		人間発達学		2 (30)	2(30)			
		人間関係論		7 (210)	3(90)	4(120)		○
	小 計		14	18 (375)	14(255)	4(120)		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解 剖 学	12	4 (60)	4(60)			
		運 動 学		4 (60)	4(60)			○
		機能解剖学		6 (120)	6(120)			○
		生 理 学		8 (120)	8(120)			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	14	2 (30)	2(30)			
		病理学概論		2 (30)	2(30)			
		内 科 学		4 (60)	4(60)			
		整形外科学		4 (60)		4(60)		
		神経内科学		4 (60)	4(60)			
		精神医学		4 (60)	4(60)			○
		薬 理 学		2 (30)		2(30)		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉学	4	2 (30)		2(30)		
医学概論		2 (30)		2(30)				
小 計		30	48 (750)	40(630)	8(120)			
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	5	3 (90)	2(60)	1(30)		○
		作業療法概論		4 (60)	4(60)			○
		基礎作業療法学演習		5 (150)			5(150)	○
		専門作業療法学演習		5 (150)			5(150)	○
	作業療法管理学	作業療法管理学	2	2 (30)		2(30)		○
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	5	4 (120)	4(120)			○
		作業療法評価学Ⅱ		4 (120)		4(120)		○
		臨床評価学		8 (240)		8(240)		○
	作業療法治療学	発達作業療法学	19	4 (60)		4(60)		○
		中枢神経作業療法学		4 (60)		4(60)		○
		末梢神経作業療法学		4 (60)		4(60)		○
		精神機能作業療法学		4 (60)		4(60)		○
		高齢期作業療法学		4 (60)		4(60)		○
		高次脳機能作業療法学		2 (30)		2(30)		○
		義肢装具学		3 (60)		3(60)		○
	地域作業療法学	社会生活行為学	4	3 (60)		3(60)		○
		地域作業療法学		3 (60)		3(60)		○
	臨 床 実 習	見学実習	22	1 (45)	1(45)			○
		地域実習		1 (45)		1(45)		○
		評価実習		3 (135)		3(135)		○
		臨床実習		18 (810)			18(810)	○
	小 計		57	89 (2505)	11(285)	50(1110)	28(1110)	
合 計			101	155 (3630)	65(1170)	62(1350)	28(1110)	

- 【授業概要】グループにて課題の解決を行い、課題解決に必要な考え、行動のプロセスを学ぶ。
- 【到達目標】自身で学習・課題解決するために必要なことに気づく。
専門基礎科目である、解剖学、生理学、運動学の学習にて得点を上げることができる

【授業の進め方】		担当教員
回数	授 業 内 容	
1	成績判定、授業の流れの説明 視覚的記憶の練習 筋や関節の絵を観察したあと、視覚的記憶をたどって再生する	植村
2	筋や関節の絵を観察したあと、視覚的記憶をたどって再生する	植村
3	脳の断面のイメージを観察し、視覚的記憶をたどって再生する	植村
4	文章を読む:試験問題の文章を読んで何を問われているかを考える	植村
5	文章を読む:試験問題の文章を読んで何を問われているかを考える	植村
6	検索する:複数のテキストから問いの答えを見つけ出す	植村
7	検索する:複数のテキストから問いの答えを見つけ出す	植村
8	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
9	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
10	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
11	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
12	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
13	検索する:テーマに対する論文の検索をして、どのような論文があって、どのような結論、研究方法かをまとめ、テーマについてどの程度分かったかをレポートにまとめる	植村
14	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
15	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
16	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
17	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
18	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
19	国試問題の解説を作る 何がわかる必要があるかを定めて、わかりやすい解説を作る グループ活動	植村
20	国試問題の解説の発表会	植村
21	国試問題の解説の発表会	植村
22	解剖生理運動(3科目模試) 実施 グループで試験結果の分析	植村
23	3科目模試のグループにての学習会	植村
24	3科目模試のグループにての学習会	植村
25	3科目模試練習問題と実力チェック	植村
26	課題解決を行うために必要なことを振り返るためのアンケート実施、共有	植村
27	作業療法場面の動画を見ての問いに対する話し合い	植村
28	作業療法場面の動画を見ての問いに対する話し合い	植村
29	COPM体験と練習	植村
30	COPM体験と練習	植村
31	筆記試験 解剖・運動・生理 から出題	植村

- 【授業外学修】グループにて試験勉強を時間を見つけて行うこと
- 【教科書名】作業療法がわかる吉川ひろみ AMPS・COPMスターティングガイド.医学書院,2008.
野村 嶧 編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第6版.医学書院, 2024.
- 【参考図書】中村隆一 他:基礎運動学第6版.医歯薬出版, 2015.
岡田隆夫 他:標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版.医学書院,2018.
菊池恵美子・斎藤佑樹 監修:作業療法を観る.株式会社シービーアール, 2017.
- 【評価基準】論文検索まとめレポート3割 国試問題解説レポート3割 3科目模試(国家試験問題)筆記試験4割 合計10割にて評価
- 【実務経験】作業療法士 臨床経験5年以上,週1回学外臨床参加

【授業概要】

呼吸器・循環器関連の基礎知識や評価などの知識の確認を行うとともに、国家試験対策問題にあたりながら問題への応用に取り組む。

【到達目標】

循環器、呼吸器関連の生理学・解剖学・運動学関連の国家試験関連の問題を6割以上正答することが出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	呼吸器の解剖学 テキストP11～13	植村
2	呼吸器の生理学テキスト 肺気量分画、%肺活量、I秒率、%I秒量 フローボリューム曲線 換気障害の判定 P14～15	植村
3	O ₂ カスケード AaDO ₂ 、動脈血ガスの基準値、酸塩基平衡 P16～17	植村
4	ガス交換障害 肺泡低喚起、換気血流比の不均衡、肺内シャントの拡大、拡散障害 p17～19	植村
5	呼吸不全の定義と関連疾患の病態 COPD、間質性肺炎、誤嚥性肺炎、DMD、ALS p19～22	植村
6	呼吸リハビリテーションの評価 呼吸困難感の評価 視診、触診、打診、聴診 p26～32	植村
7	呼吸リハビリテーションの評価 呼吸困難感の評価 視診、触診、打診、聴診 p26～32	植村
8	呼吸リハビリテーションの評価 運動耐用量、ADL、QOL、栄養 p32～33	植村
9	呼吸リハビリテーションの評価 画像診断 p34	植村
10	呼吸リハビリテーションの概要 コンディショニング、呼吸法、運動療法の基本 p38～46	植村
11	呼吸 作業療法 p49～58	植村
12	呼吸 作業療法 p49～58	植村
13	呼吸 酸素療法 p61～70	植村
14	呼吸リハビリテーションに関する復習テストとフィードバック	植村
15	呼吸リハビリテーションに関する復習テストとフィードバック	植村
16	バイタルサインp83～91	植村
17	心臓の解剖と生理	植村
18	心臓の解剖と生理	植村
19	心筋梗塞と狭心症 診断、検査について p94～96	植村
20	心電図読影	植村
21	心電図読影	植村
22	心電図読影	植村
23	心電図読影	植村
24	心電図読影	植村
25	心臓関連に関するテストとフィードバック	植村
26	心臓関連に関するテストとフィードバック	植村
27	栄養リハビリテーションの基礎	植村
28	栄養リハビリテーションの基礎	植村
29	糖尿病と糖尿病の合併症	植村
30	糖尿病と糖尿病の合併症	植村
31	定期試験	植村

【授業外学修】 テキスト及び提示された予習課題を予習しておくこと

【教科書名】 石川朗, 植村留美, 野田和恵 編: 作業療法テキスト内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝. 中山書店, 2019.

- 【参考図書】
- ①石澤光郎, 富永淳: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「生理学」第3版. 医学書院, 2012.
 - ②本郷利憲, 廣重力, 豊田順一, 熊田衛 編: 標準生理学第3版. 医学書院, 1995.
 - ③前田眞治 編, 前田眞治, 上月正博, 飯山準一, 瀬田拓: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「内科学」第4版. 医学書院, 2020.
 - ④石川隆: カラー図鑑 生理学の基本がわかる事典. 西東社, 2014.
 - ⑤大塚正英: Dr. 大塚の血液ガスの何故? が分かる 基礎から学ぶ酸塩基平衡と酸素化の評価. 学研メディカル秀潤社, 2012.
 - ⑥高橋仁美: 理学療法NAVIこの30題で呼吸理学療法に強くなる. 医学書院, 2017.
 - ⑦高橋仁美, 宮川哲夫, 塩谷隆信 編: 動画で分かる呼吸リハビリテーション第2版. 中川書店, 2008.
 - ⑧永井利幸 他監: 病気が見えるvol.2循環器第4版. メディックメディア, 2019.
 - ⑨上月正博 編著: 心臓リハビリテーション. 医歯薬出版, 2014.
 - ⑩野口善令: 診断に自信がつく検査値の読み方教えます! 異常値に惑わされない病態生理と検査特性の理解. 羊土社, 2014.
 - ⑪内山靖, 小林武, 潮見泰蔵 編: 臨床評価指標入門: 適応と解釈のポイント. 協同医書, 2008.

【評価基準】 筆記試験による評価 6割以上の得点にて単位認定する

【実務経験】 作業療法士 臨床経験5年以上, 週1回学外臨床参加

科目名： 整形外科（前期）

授業形態：講義

担当教員： 中川 悟

通年 4単位

【授業概要】 整形外科の基礎的事項と骨折などの外傷性疾患を学ぶ。

【到達目標】 骨、関節、筋、神経の基礎的知識を得、骨折や外傷性疾患について理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	整形外科基礎知識 医学の歴史、骨・関節・骨格筋・神経の基本構造と機能	中川
2	運動器の評価と検査法 関節可動域や筋力測定、レントゲンやMRI、その他の検査法の知識を得る	中川
3	骨折総論 骨折の分類、診断、症状、治療	中川
4	骨折（上肢） 肩甲帯、上腕骨、前腕、手の骨折について学ぶ	中川
5	骨折（下肢） 大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、踵骨、足部の骨折について学ぶ	中川
6	骨折（体幹・骨盤） 鎖骨、胸骨、肋骨、脊椎骨折、骨盤骨折について学ぶ	中川
7	小児の骨折 小児の骨折の特徴と代表的骨折について学ぶ	中川
8	老人の骨折 老人の骨折の特徴と代表的骨折について学ぶ	中川
9	骨折のまとめ 骨折の復習	中川
10	脊椎の疾患 脊椎の構造と代表的疾患について学ぶ	中川
11	脊髄損傷 脊髄の損傷高位と症状について学ぶ	中川
12	骨粗鬆症 骨粗鬆症の病態、機能障害について学ぶ	中川
13	関節における外傷性疾患 肩・肘・股・膝関節の構造と代表的疾患について学ぶ	中川
14	末梢神経における外傷性疾患 代表的神経損傷・麻痺の病態を理解する	中川
15	腱・靱帯における外傷性疾患 肩腱板損傷・膝十字靱帯損傷・足関節捻挫など	中川
16	定期試験	中川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準整形外科学」（医学書院）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験85% レポート15%

科目名： 整形外科（後期）

授業形態：講義

担当教員： 中川 悟

【授業概要】 その他の整形外科疾患について学ぶ。
整形外科の基礎的事項と骨折などの外傷性疾患を学ぶ。

【到達目標】 スポーツ障害や、自己免疫疾患、末梢神経損傷について理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	上肢のスポーツ障害 代表的スポーツ障害（野球肩・野球肘）について理解する	中川
2	下肢のスポーツ障害 骨端症、疲労骨折について理解する	中川
3	体幹のスポーツ障害 代表的スポーツ障害について理解する	中川
4	化膿性疾患（骨髄炎、関節炎） 小児や成人の骨関節の感染症を学ぶ	中川
5	関節リウマチやリウマチ性疾患 リウマチ性疾患について学ぶ	中川
6	退行性疾患 変形性膝関節症について学ぶ	中川
7	小児の股関節疾患 日本人の股関節疾患の特徴、病態について学ぶ	中川
8	成人の股関節疾患 日本人の股関節疾患の特徴、病態について学ぶ	中川
9	骨・軟部腫瘍 代表的骨・軟部腫瘍の知識を得る	中川
10	熱傷・四肢循環障害、切断 切断の原因となる疾患の知識を得る	中川
11	上肢の末梢神経損傷 代表的な末梢神経麻痺について知識を得る	中川
12	下肢の末梢神経損傷 代表的な末梢神経麻痺について知識を得る	中川
13	超高齢化社会日本とロコモティブシンドローム（運動器不安定症）	中川
14	フレイルとサルコペニア	中川
15	後期の講義の総括 後期の復習	中川
16	定期試験	中川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準整形外科学」（医学書院）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験85% レポート15%

- 【授業概要】薬理学は、病気の治療、予防および診断に対して広範囲な医学分野と密接に関連した学問であるため、豊富な図解と解説の教科書を用いて、薬の基本的な作用メカニズム(薬理学)について分かりやすく解説する。
- 【到達目標】薬理学は、自分に縁のない難しい学問と捉えるのではなく、日常生活において最も身近な学問の一つであることを理解する。これまでの薬に対する認識を一新し、さらに薬に対する興味・関心度を高める。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	薬(薬剤)に対する意識	宮下
2	薬はどのように効いているのか・薬の運命	宮下
3	剤型のいろいろ・薬の正しい飲み方・危険な薬	宮下
4	薬の用量・薬で起こる困った問題	宮下
5	麻酔薬・睡眠薬・解熱鎮痛薬	宮下
6	向精神薬・アルコールの作用・抗てんかん薬	宮下
7	抗パーキンソン病薬・自律神経作用薬・筋弛緩薬	宮下
8	消化器に作用する薬	宮下
9	心臓に作用する薬・動脈硬化の予防・抗高脂血症薬	宮下
10	血圧を下げる薬	宮下
11	呼吸器に作用する薬	宮下
12	ホルモン療法	宮下
13	代謝性医薬品	宮下
14	抗炎症薬・化学療法薬	宮下
15	演習問題	宮下
16	定期試験	宮下

- 【授業外学修】復習:講義内容を整理し、時間をかけ理解すること。理解できない場合は、次回講義の際に必ず質問すること。
- 【教科書名】「新版 超図解 薬はなぜ効くか 医師・看護師・薬剤師へ」(講談社)
- 【参考書名】
- 【評価基準】定期試験100%

【授業概要】我が国は「人口減少・超高齢化・少子化」社会に直面し、「地域共生社会実現」、「地域包括ケアシステム構築、医療・介護・福祉の連携・協働」が国家的課題となる中で、作業療法士には人生のライフステージを理解した上で地域包括ケアシステム構築、精神保健分野における「地域移行・地域定着」課題について具体的アプローチが期待されている。本講義では情勢に対応する国の政策等を意識し、保健・医療・福祉・介護等関連諸制度の理解、関連職種・部署の理解と連携・協働について学ぶ。

【到達目標】我が国における保健医療福祉の現状と課題について包括的に理解できる。当面の課題2025年に向けた「地域包括ケアシステム構築」実現と作業療法の関連が理解できる。

保健・医療・介護・福祉制度と制度に基づくサービスの理解、精神保健分野における課題の理解、関係する各専門職等の法的根拠について事例を通して理解できる。

地域リハビリテーションの展開に必要な知識・技術、多職種・部署間の連携・協働と作業療法士の機能・役割を関連付けて理解できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション 我が国における社会保障の現状と課題：人口減少、少子高齢化と社会保障	毛利
2	社会保障の全体像と地域保健福祉：①「2025年問題」の課題 ②「地域包括ケアシステム構築」	毛利
3	保健制度・事業の概要 ①保健制度・事業の仕組み ②地域保健福祉の概要・課題 ③精神保健福祉法の概要 ④母子保健事業の概要	毛利
4	医療保障制度1:①医療保障制度の全体像 ②医療保険制度の概要と特徴 ③後期高齢者医療制度	毛利
5	医療保障制度2:①診療報酬制度・診療報酬とリハビリテーション ②精神保健福祉法と精神障害者の医療・保健	毛利
6	①ICFについて基礎的理解 ②高度急性期・急性期・回復期から在宅療養に向けたリハビリテーションの機能・役割	毛利
7	介護保険関連1:法の概要:歴史、仕組、サービスの特徴	毛利
8	介護保険関連2:①医療と介護の連携 ②介護とリハビリテーションとの関連 ③介護予防・総合支援事業と作業療法	毛利
9	前半のまとめ(中間試験)	毛利
10	作業療法とかわかる様々な職種の身分法、中間試験	毛利
11	社会福祉の理解:①基礎概念 ②社会福祉をとりまく状況、仕組み・領域・運営 ③社会福祉に関係する人たちの理解	毛利
12	障害者の福祉1:①障害の概念、障害者総合支援法の概要 ③ノーマライゼーション	毛利
13	障害者の福祉2:①障害諸総合支援法によるサービス全般 ②精神保健・精神障害者	毛利
14	地域リハビリテーション:①「地域包括ケアシステム構築」に向けた関連職種との連携方法、リハビリテーションの機能・役割	毛利
15	全体のまとめ	毛利
16	定期試験(期末試験)	毛利

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】「PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学」(羊土社)

【参考図書】「令和2年度版 厚生労働白書」(厚生労働省編)令和2年10月、厚生労働省がインターネットで配信する様々な審議会での参考資料等。

【評価基準】総合評価100%:定期試験80%(中間試験、期末試験)、出席評価10%、コメントカード等10%

【その他】 必要に応じて、事前に授業に関連するレジメ・資料を配布する。事前学習を怠らない事。A4版フラットファイルを一つ用意する。

※内容変更の場合あり

- 【授業概要】対象者の生活行為の改善に作業用いた実践を意識して取り組めるように作業の特性を理解し、作業遂行が持つ心身や社会的な効果を考察し、対象者に対して適応する経験を通して作業療法実践の在り方の価値観を醸成する。
- 【到達目標】
- ・作業の特性について知り、人が生活の中で作業が切り離せない存在であること（作業的存在）を自分なりの言葉で説明できる。
 - ・人間作業モデルの概念を通して作業モデルの内容を理解する。
 - ・陶芸のひも作り法の分析を通して全般的作業分析を理解することができる
 - ・作業分析を作業分析ツールを使用しながら実施し、その作業がどのような特徴を備えるかを把握するプロセスを経験することが出来る。
 - ・対象者の治療目的に応じて作業設定、段階づけを考え、他者と吟味することが出来る。
 - ・認知症対象者の特性を考慮しながら治療目的に合わせた作業の応用について理解できる
 - ・作業療法場面における作業行動理論の応用を考えることができる

【授業の進め方】		
回数	授 業 内 容	担当教員
1	作業とは何か	植村
2	作業の主観的意味	植村
3	生産的作業 役割としての作業	植村
4	作業バランスについて 作業的公正	植村
5	理論とは モデルの階層性 作業療法理論の紹介	植村
6	大理論 人間作業モデル 実践モデル MTDLP・OTIPMの紹介 運動コントロールモデル 関節可動域訓練など	植村
7	作業と行動心理 行動学習の理論（オペラント条件付け レスポンデント条件付け 社会的学習理論）	植村
8	行動学習理論の応用	植村
9	作業と運動 買い物袋の把持位置による使用する筋力の違い	植村
10	レクリエーションの心理作用 集団に慣れるための方法を考える 集団でのふるまいの形式による集団内での操作について考える	植村
11	視覚障害者へのレクリエーションを考える	植村
12	認知機能障害者へのレクリエーションを考える	植村
13	陶芸のひも作り法による湯呑つくりの分析	植村
14	陶芸のひも作り法による湯呑つくりの分析	植村
15	陶芸のひも作り法による湯呑つくりの分析	植村
16	筆記試験	植村

【授業外学修】ワークシートの提出を求めるので、授業中に完結しなかった内容については仕上げる

【教科書名】古川宏 監：つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル第2版、医学書院、2024。

【参考図書】小川真寛、藤本一博、京極真：5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書、メジカルビュー、2020。
Gary Kielhofner 編著 山田孝 監訳 人間作業モデル理論と応用改訂第3版、協同医書出版、2009。
Anne G.Fisher 著 斎藤さわ子、吉川ひろみ 監訳：作業療法介入プロセスモデル。

【評価基準】筆記試験5割 ワークシート提出3割 陶芸のひも作りレポート2割 合計10割のうち6割以上の得点で単位を付与する

【実務経験】作業療法士 臨床経験5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

- ・作業療法における管理学の位置づけ, 組織マネジメント, 医療安全, 医療サービスを学ぶ。
- ・作業療法業務の実際について学ぶ。
- ・作業療法の職域や職業倫理, 作業療法を取り巻く諸制度, 作業療法臨床実習, 作業療法士のキャリア開発について学ぶ。

【到達目標】

- ・作業療法における管理学の位置づけ, 組織マネジメント, 医療安全, 医療サービスについて理解する。
- ・作業療法業務について理解する。
- ・作業療法の職域や職業倫理, 作業療法を取り巻く諸制度, 作業療法臨床実習, 作業療法士のキャリア開発について理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	作業療法におけるマネジメント	園屋
2	組織の成り立ちとマネジメント	園屋
3	情報のマネジメント	園屋
4	作業療法と医療サービス	園屋
5	医療安全のマネジメント	園屋
6	作業療法業務のマネジメント①(人・物・経済性のマネジメント)	園屋
7	作業療法業務のマネジメント②(情報・時間・ストレスマネジメント)	園屋
8	作業療法業務のマネジメント③(実践からの学び)	園屋
9	作業療法の役割と職域	園屋
10	作業療法士の職業倫理	園屋
11	作業療法を取り巻く諸制度	園屋
12	作業療法臨床実習の理解と管理体制	園屋
13	作業療法士のキャリア開発	園屋
14	作業療法士国家試験出題基準について	園屋
15	定期試験対策	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「作業療法管理学 第3版」(医歯薬出版)

【参考図書】 「リハビリテーション管理学」(医学書院)

【評価基準】 定期試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】 作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

【授業概要】

臨床の検査測定場面を想定し、人の体に接する時の感覚や力の入れ具合、自分の体の使い方などを実際の実技演習を中心に行い、作業療法評価における検査測定の知識と技術を学ぶ。日常生活活動・手段的日常生活動作の評価、ICFの分類と相互関係を学び、対象者の状態把握に役立てる。

【到達目標】

検査手技に対する知識を得て、説明と検査が実施できる。

日常生活活動・手段的日常生活動作の評価について説明と評価が実施できる。

ICFの分類、相互関係を理解し、全体像を把握することができる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	寝返り・起き上がり・起立着座動作の分析	池田
2	寝返り・起き上がり・起立着座動作への介入	池田
3	移乗動作の分析	池田
4	移乗動作への介入	池田
5	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)の概要①	池田
6	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)の概要②	池田
7	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)演習①	池田
8	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)演習②	池田
9	運動麻痺に対するその他の検査概要	池田
10	運動麻痺に対するその他の検査演習	池田
11	車椅子駆動分析	池田
12	車椅子駆動演習	池田
13	日常生活動作評価(Barthel Index)の概要	池田
14	日常生活動作評価(Barthel Index)の事例演習	池田
15	日常生活動作評価(FIM)の概要①	池田
16	日常生活動作評価(FIM)の概要②	池田
17	日常生活動作評価(FIM)事例演習①	池田
18	日常生活動作評価(FIM)事例演習②	池田
19	ICFの概念①	池田
20	ICFの概念②	池田
21	ICFの活用(事例演習)①	池田
22	ICFの活用(事例演習)②	池田
23	筋緊張検査の概要	池田
24	筋緊張検査演習	池田
25	疼痛検査の概要	池田
26	疼痛検査演習	池田
27	SOAP分類、姿勢観察	池田
28	日常生活動作の観察と分析	池田
29	実技試験(片麻痺機能検査)	池田
30	実技試験(基本動作・移乗動作介助)	池田
31	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

「作業療法評価学 第4版」(医学書院) 脳卒中の機能評価-SIASとFIM[基礎編](金原出版社)

「PT・OTのための臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編第2版補訂版」(金原出版社)

「PT・OTのための臨床技能とOSCE機能障害と能力低下への介入編第2版」(金原出版社)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験80%・実技試験20%

【実務経験】

作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

評価の意義や評価に求められる条件を理解し、主に身体障害系作業療法臨床遂行場面にて使われる評価の考え方と方法について学ぶ。さらに脳画像診断を学び、作業療法評価計画立案の一助とする。

【到達目標】

評価の信頼性と妥当性を検討することの意義を説明できる。
上肢機能評価のそれぞれの特性について説明できる。
中枢性疾患の画像所見から障害像を概ね推測し説明できる。
作業遂行場面を観察してAMPS技能項目の概念に照らし合わせて採点し、作業遂行評価の方法としてAMPSの意義と方法を概ね説明できる。
上肢の中枢性運動障害の動作の障害について正常な動作と比較し、障害の特性を勘案しながら動作の異常性について説明することが出来る。
感覚・知覚検査の使われ方と検査法について説明できる
軽度認知障害の概念とその代表的評価についての概要を説明できる
転倒の原因や頻度、心身機能との関連及び評価について概ね説明できる
QOLの概念とその評価（主観、客観）について述べる事ができる
痛みの種類や定量的評価、定性的評価について理解できる

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	評価の意義 評価の信頼性と妥当性 質的評価と量的評価	植村
2	臨床的最小の差MCIDについて 診療ガイドラインについて 事例を通した評価の使われ方	植村
3	上肢機能評価に関して 上肢機能とは	植村
4	上肢機能評価の紹介	植村
5	上肢機能評価演習 MFT STEF ARAT	植村
6	上肢機能検査の選択とアウトカムとしての使用例（文献を通して 整形外科領域、骨折や手の外科、脳血管障害領域、その他）	植村
7	運動失調の基礎 四肢の失調、体幹失調、代表的疾患	植村
8	協調性検査各論 協調性障害の種類、代表的検査	植村
9	感覚と知覚の評価 総論 中枢、脊髄レベル、末梢の知覚分布 伝導路、感覚受容器について	植村
10	感覚と知覚の評価 実際の評価 定量型痛覚検査 動的、静的触覚、静的、動的二点識別覚 局在について	植村
11	感覚と知覚の評価 実際の評価 定量型痛覚検査 動的、静的触覚、静的、動的二点識別覚 局在について	植村
12	軽度認知障害について 基本チェックリスト MOCA-J DASC	植村
13	転倒の評価	植村
14	QOL評価と興味の評価	植村
15	痛みについて 痛みの評価	植村
16	復習テストとフィードバック 評価総論、上肢機能評価、運動失調と協調性、感覚と知覚、軽度認知障害、転倒、QOLと興味の評価、疼痛検査	植村
17	復習テストとフィードバック 評価総論、上肢機能評価、運動失調と協調性、感覚と知覚、軽度認知障害、転倒、QOLと興味の評価、疼痛検査	植村
18	画像評価 CTとMRIとX線に関して 正常な脳のCT、MRI画像と 解剖学的部位名称との照らし合わせ（解剖学テキストとの照らし合わせ）	植村
19	正常な脳のCT、MRI画像と 解剖学的部位名称との照らし合わせ（解剖学テキストとの照らし合わせ）大脳皮質の機能（高次脳機能）運動、感覚野と経路の確認	植村
20	正常な脳のCT、MRI画像と 解剖学的部位名称との照らし合わせ（解剖学テキストとの照らし合わせ）大脳皮質の機能（高次脳機能）運動、感覚野と経路の確認	植村
21	脳疾患画像から障害像を推定する 脳出血、脳梗塞（皮質下出血）SAH	植村
22	脳疾患画像から障害像を推定する 多発性硬化症、アルツハイマー型認知症 水頭症 脳血管性認知症	植村
23	動作分析 左脳血管障害片麻痺患者の大ベグ操作の動画視聴 正常な操作との比較と違いについて記述 グループワークによる分析	植村
24	動作分析とポスター作製 ポスターツアー	植村
25	作業遂行評価 運動および処理技能評価（AMPS:Assessment of Motor and Process Skills）の紹介	植村
26	AMPS運動技能項目の概念説明	植村
27	AMPS運動技能項目の観察評価演習	植村
28	AMPS処理技能項目の概念説明	植村
29	AMPS処理技能項目の観察評価演習	植村
30	講義全体のまとめのテストとフィードバック	植村
31	定期試験	植村

【授業外学修】 授業内容の該当ページの予習をしておくこと

【教科書名】

能登 真一，山口 昇，玉垣 努，新宮 尚人，加藤 寿宏，勝山しおり 編：
標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学」第4版，医学書院，2024。

【参考図書】

吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド，医学書院，2008。
赤居正美 編著：リハビリテーションにおける評価法ハンドブック―障害や健康の測り方―，医歯薬出版，2010。
内山 靖，小林 武，潮見 泰蔵 編：臨床評価指標入門―適用と解釈のポイント―，協同医書，2008。
安保 雅博 監 中野 枝里子，田中 智子 編：脳卒中上肢機能評価ARATパーフェクトマニュアル，金原出版，2015。
竹内 修二：解剖トレーニングノート第6版，医学教育出版，2016。
中島雅美，中島喜代彦，大村優慈 編著：PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方 国試画像問題攻略，医歯薬出版，2016。
中村隆一，齋藤 宏，長崎 浩：基礎運動学第6版 補訂，医歯薬出版，2015。

【評価基準】

本試験
定期試験時の筆記試験にて6割得点にて単位認定

【実務経験】

作業療法士 臨床経験5年以上，週1回学外臨床参加

【授業概要】

後期の臨床評価学において実際の事例への検査測定を実施するために必要な臨床的評価技術の手順を一通り再現できるように演習を行う

【到達目標】

客観的臨床能力試験課題を一通り再現できるようになる

神経学的検査、生体力学的検査を健常モデルに対して適切な手順、方法にて実施することができる

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1・2	形態測定の振り返りと練習 形態測定測定値確認	植村
3・4	運動失調検査・協調性テスト/バランス反応について 姿勢バランス検査 FRT、FBS	橋口
5・6	形態測定の振り返りと練習 形態測定測定値確認	植村
7・8	感覚検査(表在深部感覚、二点識別覚)	植村
9・10	起き上がり訓練 立ち上がり訓練	植村
11・12	上肢機能検査(MFT・STEF・ARAT)	橋口
13・14	起き上がり訓練 立ち上がり訓練	植村
15・16	MTDLP概論	橋口
17・18	移乗訓練(非麻痺側回り) 移乗訓練(麻痺側回り)	植村
19・20	MTDLP模擬事例演習①	橋口
21・22	移乗訓練(非麻痺側回り) 移乗訓練(麻痺側回り)	植村
23・24	MTDLP模擬事例演習②	橋口
25・26	関節可動域訓練 筋力増強訓練	植村
27・28	HDS-R MMSE コース立方体組み合わせ検査/関節可動域検査振り返り	橋口
29・30	関節可動域訓練 筋力増強訓練	植村
31・32	徒手筋力検査 振り返り	橋口
33・34	促通訓練 更衣動作訓練	植村
35・36	腱反射と筋緊張検査の振り返り	橋口
37・38	促通訓練 更衣動作訓練	植村
39・40	ブルンストロームステージ検査 振り返り	橋口
41・42	血圧測定 脈拍測定の振り返り	植村
43・44	脳神経系テスト振り返り	植村
45・46	実技試験練習	植村・橋口
47・48	実技試験 関節可動域	植村・橋口
49・50	実技試験練習	植村・橋口
51・52	実技試験 筋力テスト	植村・橋口
53・54	実技試験練習	植村・橋口
55・56	実技試験 ブルンストロームステージテスト	植村・橋口
57・58	実技試験	植村・橋口
59・60	実技試験 脳神経系テスト	植村・橋口
61		

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 (金原出版)

「標準作業療法学 作業療法評価学」(医学書院)

「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」第2版 (医歯薬出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験・実技試験 筆記試験 4課題 20点ずつ 計60点 筆記試験40点

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：臨床評価学(後期) 授業形態：実習 担当教員：植村健一・池田真一・伊集院由紀・園屋和之・橋口信洋

【授業概要】

複数グループに分け取り組む。①検査測定実習では、教員の指導下での学外実習を行う。

②職業リハビリテーション評価場面の見学や障害者福祉施設の見学を実施し、障害者施設の環境を学ぶ

【到達目標】

実習を通じて、コミュニケーションや接遇を学び、職業人として常識的態度、責任ある行動を学ぶことができる。

情報収集・面接・観察・検査測定など作業療法評価を実施することができる。

評価結果や見学の概要、学び得た内容を整理し、全体像を把握することができる。レポートとレジュメを作成し、報告することができる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容
1・2	オリエンテーション
3～60	数グループに分かれて、学内・学外実習を行う 施設での事例に対しての検査測定経験と検査測定値のまとめ 職業リハビリテーション施設の見学 障害者福祉施設の見学 施設での身体心理評価の振り返りと実技習熟のための確認と練習 多職種連携の経験 基礎知識の再確認

【授業外学修】

予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 金原出版

「標準作業療法学 作業療法評価学」医学書院

【参考図書】

【授業概要】 正常発達の流れを学ぶ。
発達障害の各疾患別の特性や作業療法の評価・目的・治療について学ぶ。

【到達目標】 定型発達について理解を深め、臨床場面で活用できるような技術を身につける。
発達障害の特性を理解し、目的を持った遊びを取り入れながら必要な評価・治療イメージができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	小児の作業療法とは	伊集院
2	定型発達(運動発達)	伊集院
3	定型発達(反射・反応)	伊集院
4	定型発達(発達心理)	伊集院
5	定型発達(コミュニケーション機能、あそび)	伊集院
6	感覚統合について ①	伊集院
7	感覚統合について ②	伊集院
8	感覚統合について ③	伊集院
9	小児の評価 ①	伊集院
10	小児の評価 ②	伊集院
11	脳性麻痺について ①	伊集院
12	脳性麻痺について ②	伊集院
13	脳性麻痺について ③症例検討	伊集院
14	脳性麻痺について ④症例検討	伊集院
15	脳性麻痺について ⑤症例検討	伊集院
16	脳性麻痺について まとめ	伊集院
17	医療的ケア児について	伊集院
18	絵本の読み聞かせ	伊集院
19	筋ジストロフィー・ダウン症について ①	伊集院
20	筋ジストロフィー・ダウン症について ②	伊集院
21	紙ひこうきで遊ぼう(動作分析) ①	伊集院
22	紙ひこうきを作って教えよう(OTRと患者役に分かれて)	伊集院
23	紙ひこうきを作って ①動作分析	伊集院
24	紙ひこうきを作って ②動作分析(他児と比べる/課題点をあげる)	伊集院
25	発達障害・知的障害①	伊集院
26	発達障害・知的障害②	伊集院
27	特別支援教育について	伊集院
28	手作り玩具づくり(製作)	伊集院
29	手作り玩具づくり(製作)	伊集院
30	手作り玩具づくり(発表)	伊集院
31	定期試験	伊集院

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版」(メディカルビュー社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験70%・レポート課題15%・小テスト5%・発表10%

【実務経験】 作業療法士・病院における臨床5年以上

【授業概要】 中枢性疾患における作業療法の目的が理解でき、適切な評価技法を身につける。また、各病期における治療技術とリスク管理について教授する。作業や環境調整への円滑な適用が図れるようになることを目的とする。

【到達目標】 中枢性疾患における作業療法学(病巣・疾患や障害特性・回復過程など)を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	脳血管障害について説明できる。	山王
2	脳卒中の医学的治療について理解する。	山王
3	脳卒中後の評価(意識障害)について説明できる。	山王
4	脳卒中後の評価(運動麻痺、筋緊張)について説明できる。	山王
5	脳卒中後の評価(感覚障害)について説明できる。	山王
6	脳卒中後の評価(上肢機能障害)について説明できる。	山王
7	脳卒中後の評価(ADL・IADLの自立度低下)について説明できる。	山王
8	脳卒中患者の作業療法について説明できる。	山王
9	脳卒中患者の急性期作業療法(ROM練習とポジショニング)について説明できる。	山王
10	脳卒中患者の急性期作業療法(意識障害・座位・起居動作)について説明できる。	山王
11	脳卒中患者の急性期作業療法(ADL)について説明できる。	山王
12	脳卒中患者の回復期作業療法(運動麻痺)について説明できる。	山王
13	脳卒中患者の回復期作業療法(上肢機能改善)について説明できる。	山王
14	脳卒中患者の回復期作業療法(BRS I～V)について説明できる。①	山王
15	脳卒中患者の回復期作業療法(BRS I～V)について説明できる。②	山王
16	脳卒中患者の回復期作業療法(ADL)について説明できる。	山王
17	脳卒中患者の回復期作業療法(ADL)について説明できる。	山王
18	脳卒中患者の生活期作業療法(ADL)について説明できる。	山王
19	頭部外傷の評価・作業療法プログラムについて説明できる。①	山王
20	頭部外傷の評価・作業療法プログラムについて説明できる。②	山王
21	脊髄損傷について病態を説明できる。	山王
22	脊髄損傷の機能レベルの理解と活動レベル向上に向けた作業療法について説明できる。	山王
23	脊髄損傷のADLの移乗・移動手段について理解する。①	山王
24	脊髄損傷のADLの移乗・移動手段について理解する。②	山王
25	脊髄損傷のADLの移乗・移動手段について理解する。③	山王
26	脊髄損傷のセルフケアについて理解する。	山王
27	脊髄損傷の自助具や福祉用具について理解する。	山王
28	脊髄損傷者の地域生活・社会参加を支援する作業療法プログラムを計画できる。	山王
29	頸椎症性脊髄症について病態を説明できる。	山王
30	頸椎症性脊髄症について作業療法プログラムを計画できる。	山王
31	定期試験	山王

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学」(メジカルビュー)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上

- 【授業概要】 1. 末梢神経疾患の特徴や臨床症状を理解し、評価から問題点抽出するまでの視点を学習する。
2. 評価計画立案、評価の実施、問題点を抽出できるようになる。

- 【到達目標】 様々な末梢神経疾患の臨床症状を把握し、評価の列举やアプローチ方法を学び実践できるようになる。
また、自助具適応などに関しても知識を修得し、作成できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	関節リウマチの疫学を説明できる。	橋口
2	関節リウマチの疾患の経過を説明できる。	橋口
3	関節リウマチの対象者に対する作業療法評価を説明できる。	橋口
4	関節リウマチの各病期に応じた作業療法目標を設定し、作業療法プログラムを計画できる。	橋口
5	筋萎縮性側索硬化症の病態を説明できる。	橋口
6	筋萎縮性側索硬化症の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
7	ギラン・バレー症候群の病態を説明できる。	橋口
8	ギラン・バレー症候群の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
9	多発性硬化症の病態を説明できる。	橋口
10	多発性硬化症の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
11	多発性筋炎・皮膚筋炎の病態を説明できる。	橋口
12	多発性筋炎・皮膚筋炎の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
13	悪性腫瘍切除後の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
14	脊髄小脳変性症の病態を説明できる。	橋口
15	脊髄小脳変性症の対象者に対する作業療法の治療・指導・援助方法を修得する。	橋口
16	橈骨遠位端骨折の特徴と臨床症状を説明できる	伊集院
17	橈骨遠位端骨折の評価と介入法を説明できる	伊集院
18	橈骨遠位端骨折の評価と介入法を説明できる	伊集院
19	腱損傷の臨床症状を説明でき、評価とアプローチ方法を説明できる。	伊集院
20	上肢の末梢神経損傷に関して、臨床症状を理解する	伊集院
21	上肢の末梢神経損傷に関して、評価とアプローチ方法を説明できる。①	伊集院
22	上肢の末梢神経損傷に関して、評価とアプローチ方法を説明できる。②	伊集院
23	上肢の末梢神経損傷に関して、評価とアプローチ方法を説明できる。③	伊集院
24	腱板断裂に対する作業療法の評価を説明できる。	伊集院
25	脊椎圧迫骨折の特徴と臨床症状を説明できる。	伊集院
26	大腿骨頭部骨折の臨床症状と後療法、作業遂行時の指導法について説明できる。①	伊集院
27	大腿骨頭部骨折の臨床症状と後療法、作業遂行時の指導法について説明できる。②	伊集院
28	パーキンソン病の作業療法評価を説明できる。	伊集院
29	パーキンソン病の作業療法目標を設定できる。	伊集院
30	パーキンソン病の作業療法プログラムの計画・治療を説明できる。。	伊集院
31	定期試験	伊集院・橋口

- 【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

- 【教科書名】 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学」（メジカルビュー）
「病気が診える 脳・神経」（メディック・メディア）

【参考図書】

- 【評価基準】 定期試験80% 小テスト20%

- 【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上

【授業概要】

- ・精神機能作業療法の基本的視点, 精神保健医療福祉, 精神機能作業療法の実践基盤について学ぶ。
- ・疾患別精神機能作業療法について学ぶ。
- ・状態別精神機能作業療法ならびに場面別精神機能作業療法について学ぶ。

【到達目標】

- ・精神機能作業療法の基本的視点, 精神保健医療福祉, 精神機能作業療法の実践基盤について理解し修得する。
- ・疾患別精神機能作業療法について理解し修得する。
- ・状態別精神機能作業療法ならびに場面別精神機能作業療法について理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	精神機能作業療法の基本的視点	園屋
2	精神保健医療福祉と作業療法	園屋
3	精神機能作業療法の理論・実践モデル	園屋
4	地域生活における作業療法の視点	園屋
5	回復過程と作業療法①	園屋
6	回復過程と作業療法②	園屋
7	症状性を含む器質性精神障害に対する精神機能作業療法①	園屋
8	症状性を含む器質性精神障害に対する精神機能作業療法②	園屋
9	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
10	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
11	統合失調症, 統合失調症型障害および妄想性障害に対する精神機能作業療法①	園屋
12	統合失調症, 統合失調症型障害および妄想性障害に対する精神機能作業療法②	園屋
13	気分(感情)障害に対する精神機能作業療法①	園屋
14	気分(感情)障害に対する精神機能作業療法②	園屋
15	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害に対する精神機能作業療法①	園屋
16	神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害に対する精神機能作業療法②	園屋
17	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群に対する精神機能作業療法①	園屋
18	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群に対する精神機能作業療法②	園屋
19	成人の人格および行動の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
20	成人の人格および行動の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
21	小児[児童]期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害に対する精神機能作業療法①	園屋
22	小児[児童]期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害に対する精神機能作業療法②	園屋
23	認知機能障害における精神機能作業療法	園屋
24	身体合併症における精神機能作業療法	園屋
25	退院支援における作業療法	園屋
26	就労支援における作業療法	園屋
27	復職支援における作業療法	園屋
28	地域生活支援における作業療法	園屋
29	司法精神医療における作業療法	園屋
30	定期試験対策	園屋
31	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習: 講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習: 授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学(医学書院)

【参考図書】 「精神障害と作業療法 病を生きる, 病と生きる 精神認知系作業療法の理論と実践」(三輪書店)

【評価基準】 筆記試験 90% 小テスト 10%

【実務経験】 作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

- 【授業概要】 高齢者特有の身体的・精神的な変化について学習し、作業療法の視点から高齢者への援助・訓練の方法を学ぶ。
高齢期障害における作業療法の目的・計画・訓練について学習する。
- 【到達目標】 対象とする高齢者に必要な対応を理解できるよう、介護保険にて対象者の心身機能をマッチングできる。
高齢者の特性から対象者の状態把握、リスク予想ができる。
関わる場面ごとに適切な援助を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	高齢社会になった経緯および社会背景のの変化の経緯について説明することができる。	橋口
2	高齢期の心身の特徴および現代社会における高齢者の生活について説明することができる。	橋口
3	高齢者に関係する社会制度について説明することができる。	橋口
4	健康な高齢者の特徴について説明することができる。	橋口
5	高齢者の身体障害の特徴について説明することができる。	橋口
6	高齢期の精神障害の特徴について説明することができる。	橋口
7	高齢期に多い循環器疾患について説明することができる。	橋口
8	高齢期に多い呼吸器疾患について理解する。	橋口
9	高齢期に多い運動器疾患について理解する。	橋口
10	高齢期に多い精神疾患について理解する。	橋口
11	高齢期の社会参加を促す屋外活動について理解する。	橋口
12	高齢期の社会参加を促す作業活動について理解する。	橋口
13	認知症の定義・診断基準などを説明することができる。	橋口
14	認知症の講義・心身症状(BPSD)について説明することができる。	橋口
15	老いの普遍性と人権・尊厳について、説明することができる。	橋口
16	高齢者の生活の見方について説明することができる。	橋口
17	各病期に応じた治療・援助内容について、事例を挙げて表現あるいは口述することができる。	橋口
18	実施場所に応じた治療・援助内容について、説明することができる。	橋口
19	一般高齢者に対する作業療法について説明できる。	橋口
20	介護予防について説明することができる。	橋口
21	認知症高齢者に対する作業療法と今後の方向性について説明できる。	橋口
22	認知症の人の視点をもつことが重要である理由を説明することができる。	橋口
23	健康高齢者のケースについて必要な知識・技術を身に付けることができる。	橋口
24	要支援者のケースについて適切な作業療法を実践を理解できる。	橋口
25	要介護者のケースについて適切な作業療法を実践を理解できる。	橋口
26	軽度の認知症高齢者のケースについて適切な作業療法を実践するために、必要な知識・技術を身に付ける。	橋口
27	中等度の認知症高齢者のケースについて適切な作業療法を実践するために、必要な知識・技術を身に付ける。	橋口
28	重度認知症に生じやすい胚葉状態とその悪循環の影響を理解し、アプローチ方法を理解する。	橋口
29	エンド・オブ・ライフ・ケアの考え方を理解できる。	橋口
30	終末期における作業療法士の役割について説明できる。	橋口
31	定期試験	橋口

- 【授業外学修】 予習：レポート(約1時間)
復習：レポート(約1時間)

【教科書名】 「標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学」(医学書院)

【参考図書】

- 【評価基準】 定期試験60% 単元テスト20% 予習・復習レポート10% ループリック評価(単元ごと)10%
- 【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 脳の発達過程から高次脳機能とは何かを学ぶ。高次脳機能の各障害の症状の特徴を学び、評価と訓練に対する理解を深める。臨床実習に向けて、高次脳機能障害に対する評価や訓練が実施できるように演習を行う。

【到達目標】 高次脳機能障害の基礎知識を学び、障害特性について説明できる。
各障害の責任病巣、症状の特徴、及び評価、訓練の方法を学習し、説明・実践することができる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	高次脳機能障害とは	池田
2	脳機能局在	池田
3	注意障害の定義と分類	池田
4	注意障害の評価と訓練	池田
5	半側空間無視の定義と分類	池田
6	半側空間無視の評価と訓練	池田
7	記憶障害の定義と分類	池田
8	記憶障害の評価と訓練	池田
9	失語の定義と分類	池田
10	失語の評価と訓練	池田
11	失行・失認の定義と分類	池田
12	失行・失認の評価と訓練	池田
13	遂行機能障害・社会的行動障害の定義と分類	池田
14	遂行機能障害・社会的行動障害の評価と訓練	池田
15	まとめ	池田
16	定期試験	池田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版」（医学書院）

【参考図書】 「リハビリテーションビジュアルブック」第2版（学研） 「病気がみえる vol 7 脳・神経」（メディックメディア）

【評価基準】 定期試験80% 小テスト20%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 切断・義手の知識や評価内容を理解し、義手の適合性判定について理解を深める。また、装具について知識を習得し、整形疾患に適応するスプリント作製が行えるように技術を習得する。

【到達目標】 ①切断に至る原因や義手の種類・評価について理解する。
②スプリント作製に関する知識を知り、疾患に対してのスプリント作製技術を身につける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	義手の総論：切断者に対する作業療法の役割を理解する。	橋口
2	義手の総論：四肢切断の部位とその原因について理解する。	橋口
3	義手の総論：切断術後の断端管理について理解する。	橋口
4	義手の分類と構造・機能：義手の分類と構造・機能について理解できる。	橋口
5	義手の分類と構造・機能：義手の構造上の分類と機能的分類を理解できる。	橋口
6	義手の分類と構造・機能：切断部位に適応となる義手を理解できる。	橋口
7	チェックアウト：上腕切断の作業療法評価の項目と内容を理解できる。	橋口
8	チェックアウト：上腕義手と前腕義手のチェックアウトを理解できる。	橋口
9	チェックアウト：筋電義手のチェックアウトを理解できる。	橋口
10	上肢切断の作業療法アプローチの流れを理解できる。	橋口
11	義手装着前練習を理解できる。	橋口
12	能動義手の操作練習を理解できる。	橋口
13	筋電義手の操作練習を理解できる。	橋口
14	下肢切断の評価とアプローチについて理解できる。	橋口
15	装具について説明することができる。	橋口
16	上肢装具について理解できる。	橋口
17	上肢装具作製とチェックアウトについて理解できる。	橋口
18	上肢装具作製方法について、基本的な装具の形を説明することができる。	橋口
19	短対立スプリントの型紙を作製することができる。	橋口
20	短対立スプリントを作製することができる。	橋口
21	コックアップスプリントの型紙を作製することができる。	橋口
22	コックアップスプリントを作製することができる。	橋口
23	ボタン穴変形用スプリントを作製することができる。	橋口
24	尺側偏位防止スプリントの型紙を作製することができる。	橋口
25	尺側偏位防止スプリントを作製することができる。	橋口
26	下肢装具について説明することができる。	橋口
27	体幹装具について説明することができる。	橋口
28	車椅子の種類構造について説明することができる。	橋口
29	歩行補助具の種類について説明することができる。	橋口
30	義肢装具の支給体制について理解することができる。	橋口
31	定期試験	橋口

【授業外学修】 予習：レポート(約1時間)

復習：レポート(約1時間)

【教科書名】 「15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト義肢装具学」(中山書店)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 単元テスト20% 予習・復習レポート10% スプリント10% ルーブリック評価(単元ごと)10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上

【授業概要】 その人がその人らしく生活するということはどういうことなのかを考え学ぶ
日常生活活動(以下ADL)の基本概念や目的に沿った評価方法を学ぶ。
グループワークを通し、チームアプローチの協調性や作業療法のアイデアを学ぶ

【到達目標】 社会生活、人との関り方など人それぞれいろいろなやり方があることを学ぶ
ADLの評価方法を理解し、想起できるようになる。
レポートの作成技術、プレゼンテーション技術を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	社会生活行為とは①	伊集院
2	社会生活行為とは②	伊集院
3	ADLの概念と作業療法士の役割の理解 ①	伊集院
4	ADLの概念と作業療法士の役割の理解 ②	伊集院
5	各ADL動作の分析と支援方法の理解(食事動作)	伊集院
6	各ADL動作の分析と支援方法の理解(排泄動作)	伊集院
7	各ADL動作の分析と支援方法の理解(更衣動作)	伊集院
8	各ADL動作の分析と支援方法の理解(整容動作)	伊集院
9	各ADL動作の分析と支援方法の理解(入浴動作)	伊集院
10	各ADL動作の分析と支援方法の理解(その他の動作)	伊集院
11	ADL評価について	伊集院
12	ADL評価について(BIとFIM)	伊集院
13	FIMIについて 課題・レポート作成	伊集院
14	FIMIについて 課題・レポート作成	伊集院
15	FIMIについて 発表	伊集院
16	その人らしい楽しい生活とは①	伊集院
17	その人らしい楽しい生活とは②	伊集院
18	各疾患のADL動作の分析と支援方法について①	伊集院
19	各疾患のADL動作の分析と支援方法について②	伊集院
20	各疾患のADL動作の分析と支援方法について③	伊集院
21	日常生活行為を考える 課題・レポート作成①	伊集院
22	日常生活行為を考える 課題・レポート作成②	伊集院
23	日常生活行為を考える 課題・レポート作成③	伊集院
24	日常生活行為を考える 発表	伊集院
25	社会生活行為(余暇・生きがい)レクリエーション企画	伊集院
26	社会生活行為(余暇・生きがい)レクリエーション企画・準備	伊集院
27	社会生活行為(余暇・生きがい)レクリエーション企画・準備	伊集院
28	社会生活行為(余暇・生きがい)レクリエーション・発表	伊集院
29	社会生活行為(余暇・生きがい)レクリエーション・発表	伊集院
30	社会生活行為のまとめ	伊集院
31	定期試験	伊集院

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL) 第2版」(メディカルビュー社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験60%・課題発表15%・レポート提出15%・小テスト10%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上

【授業概要】

地域生活における作業療法士、多職種の業務と役割について理解を深める。福祉機器の知識や操作方法、選定について学ぶ。住宅に関する一般的な知識と住環境評価の視点を学び、住宅改修について理解を深める。

【到達目標】

地域リハビリテーションの概念を理解し、地域作業療法を支える社会資源や実践の場に応じた作業療法を説明できる。
住環境整備に関わる作業療法を理解し、地域における住環境整備の意義と作業療法の視点について説明できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	地域リハビリテーションの概念①	住吉
2	地域リハビリテーションの概念②	住吉
3	地域リハビリテーションの概念③	住吉
4	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規①	住吉
5	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規②	住吉
6	地域包括ケアシステム	住吉
7	住環境と福祉用具：住環境評価について①	住吉
8	住環境と福祉用具：住環境評価について②	住吉
9	住環境と福祉用具：住環境整備について①	住吉
10	住環境と福祉用具：住環境整備について②	住吉
11	住環境と福祉用具：住環境整備の手法について①	住吉
12	住環境と福祉用具：複視用具と住環境について①	住吉
13	住環境と福祉用具：複視用具と住環境について②	住吉
14	住環境とユニバーサルデザインについて①	住吉
15	住環境とユニバーサルデザインについて②	住吉
16	地域におけるリスクマネジメント	吉原
17	地域リハビリテーションプロセス	吉原
18	地域リハビリテーションの実際：訪問リハビリ	吉原
19	地域リハビリテーションの実際：通所リハビリ	吉原
20	地域リハビリテーションの実際（施設系リハビリ）	吉原
21	地域リハビリテーションの実際（就労支援）	吉原
22	地域リハビリテーションの実際（終末期）	吉原
23	地域リハビリテーションの実際（小児）	吉原
24	予防分野のリハビリテーション：サルコペニアと介護予防	吉原
25	予防分野のリハビリテーション：認知症予防	吉原
26	予防分野のリハビリテーション：転倒予防	吉原
27	作業を用いた健康への貢献	吉原
28	行政における作業療法士の役割	吉原
29	地域の防災と災害支援	吉原
30	地域で求められる療法士の起業	吉原
31	定期試験	吉原

【授業外学修】 復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学」（羊土社）

【参考図書】 「地域作業療法学 第4版」（医学書院）

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上

【授業概要】

訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションを行っている臨床実習施設で利用されている症例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。
Ⅰ施設Ⅰ週間実施する。

【到達目標】

地域実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種の役割を学ぶ
作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける
地域リハビリテーションを体験し、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を学ぶ

【授業の進め方】

授 業 内 容	
オリエンテーション	
事前学習	
情報収集	
地域リハビリテーション場面見学	
実習報告	
実習の振り返り	

【授業外学修】

予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約Ⅰ時間）
復習：実習内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約Ⅰ時間）

【教科書名】

「標準作業療法学 地域作業療法学第3版（医学書院）」

【参考図書】

【評価基準】

実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 ：計100点

【実務経験】

作業療法士、病院における臨床5年以上、週Ⅰ回学外臨床参加

【授業概要】

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている症例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。Ⅰ施設3週間実施する。

【到達目標】

評価実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種との役割を学ぶ

作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける

対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける

【授業の進め方】

授 業 内 容
オリエンテーション 事前学習 情報収集 評価計画立案 評価実施（見学・模倣・実施） 問題点の抽出 問題点相互関係の整理・分析・焦点化 目標設定 治療計画立案 症例報告 実習の振り返り

【授業外学修】 予習：実習に臨む前に、該当する教科書・資料等を確認し、必要な実技の練習を行う。（約1時間）

復習：実習内容を整理し、振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】

【参考図書】

【評価基準】 実習成績30点 報告書・報告会20点 デイリーノート10点 実習出席点40点 ：計100点

【実務経験】 作業療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加